

救急だより ピーポー



編集・発行／さつま町消防本部

〒895-1816 さつま町時吉 366 Tel 52-0119 Fax 53-0119

w e b <http://www.satsuma-net.jp/119/>

E-mail shobo@satsuma-net.jp

発行 平成 25 年 8 月



家の中がいちばん安全!?

そう思っていないませんか?

◆さつま町の現状

消防署では、過去5年間にケガなどの不慮の事故で632名の方を救急車で搬送しており、その搬送件数は増加傾向にあります。

なかでも65歳以上の高齢者の割合が約71%と非常に高く、その原因としては、「滑って転倒した」、「階段から落ちた」、「餅などの食べ物をのどに詰めた」、「お風呂でおぼれた」などといった事故が多数を占めています。

◆高齢になるほど重症化

これらの事故は、右のグラフのとおり約70%が住宅などの普段生活している場所、つまり家庭内で起こっているのです。

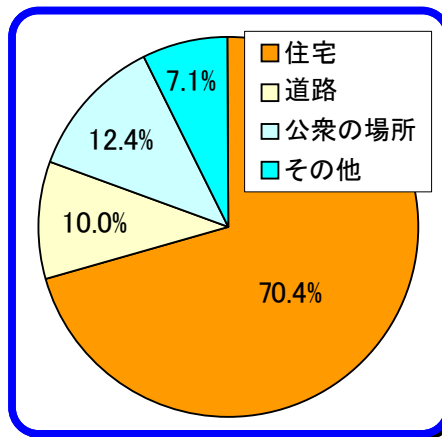
さらに、高齢であるほど重症化する傾向もあり、長期の入院による寝たきりの原因となることもあります。

◆まずは事故の予防

こういった家庭内の事故は、まず事故が起こらないように予防することが一番大切です。

特に高齢者は骨量が不足しがちで、転倒などにより容易に骨折を起こしやすくなります。骨折などの大きなケガを経験すると、不安が強くなって普段の活動量そのものが落ちてしまい、その結果筋力がより衰えてしまってケガをしやすくなってしまおうといったことにもつながるため、特に注意が必要です。

ケガの発生場所割合



階段、段差などで

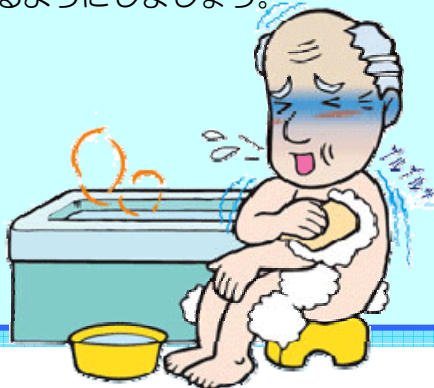
階段などの段差には手すりをつけ、足元が見えるように明るい照明をつけましょう。また、階段の周囲は整理整頓し物を置かないようにしましょう。

家庭内に危険な箇所がないか家族で事前に確認しておくことも大切です。



お風呂や脱衣所で

寒い脱衣所から急に熱いお風呂に入ると体に負担がかかります。事前に浴室を暖めておくなどしましょう。また食後や飲酒後の入浴は、急激な血圧の変化を起こす可能性がありますので、避けるようにしましょう。



高所からの転落

特に男性に多いのが、庭木の剪定作業中の脚立からの転落事故です。無理をせず、若い人や専門の業者に任せるのが安心です。

また家庭内でも、踏み台などからの転落に注意しましょう。





こんな症状があったら

シリーズ

すぐ救急車！

『子どもの救急』編

今回は子どもの救急編です。こんな症状がみられたら、重大な病気やけがの可能性がります。

かお

- くちびるの色が紫色で、呼吸が弱い

ここが危険

体内の酸素が足りておらず、酸素投与が必要な状態です。

むね

- 激しいせきやゼーゼーして呼吸が苦しく、顔色も悪い

ここが危険

同じく体内の酸素が足りなくなり、酸素投与が必要な状態です。

けいれん

- けいれんがとまらない、けいれんが止まっても意識がもどらない

ここが危険

ケイレン重積状態の可能性がります。



あたま

- 頭を痛がって、けいれんがある
- 頭を強くぶつけて、出血が止まらない、意識がない・おかしい、けいれんがある

ここが危険

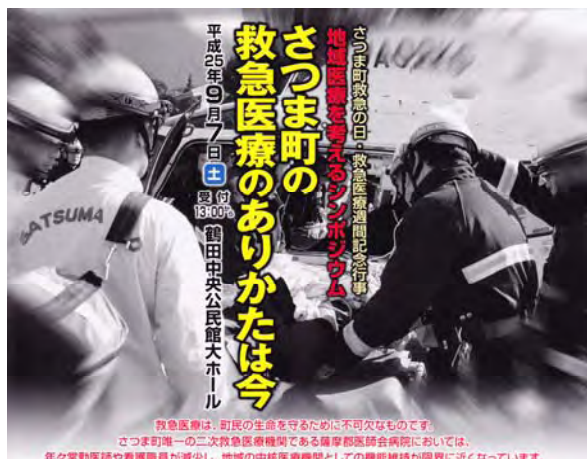
大切な脳に障害が及んでいる可能性があります。

おなか

- 激しい下痢や嘔吐で水分が取れず、食欲がなく意識がはっきりしない
- 激しいお腹の痛みで苦しがり、嘔吐が止まらない
- ウンチに血がまじった

ここが危険

脱水症状で点滴等による水分補正が必要な可能性があります。



平成25年9月7日(土) 13時00分
さつま町の救急医療のありかたは今
 地域医療を考えるシンポジウム

地域医療を考えるシンポジウム開催

さつま町の救急の日記念行事として、地域医療を考えるシンポジウム「**さつま町の救急医療のありかたは今**」が開催されます。

救急医療は町民の生命を守るために不可欠なものです。さつま町ではその機能を維持していくのが限界に近くなっています。シンポジウムを通じて救急医療や、日常の医療機関受診のあり方などについて一緒に考えてみましょう。

◆日時：平成25年9月7日(土) 13時受付

◆場所：鶴田中央公民館大ホール(役場鶴田支所隣)

※入場は無料で、参加者には健康さつま1ポイントと記念品を差し上げます。

救急の日・救急医療週間

9月9日は救急の日です。また8日から14日までの1週間は救急医療週間です。救急車の正しい利用法や身近な応急手当について考えてみましょう。

集団救急事故訓練

日時：9月17日(火) 13時40分から
 場所：宮之城運動公園
 想定：交通事故により多数の傷病者が発生

基調講演 13:40~14:40
 演題：「地域医療の現状と課題」
 講師：高松 英夫 鹿児島大学理事(前鹿児島大学病院地域医療支援センター長)

座談会 14:50~15:10
 演題：「119番救急医療の保健医療の現状について」
 講師：堀松 龍治 鹿児島県南川保健康所長

シンポジウム 15:20~16:50
 (テーマ) さつま町の救急医療のありかた
 医師の立場から——草野 潤 薩摩郡医師会長
 救急搬送の立場から——高木 卓朗 さつま町消防本部消防長
 行政の立場から——日高 政隆 さつま町長

(司会) 佐藤 隆一 南日本新聞社業務取締役

入場無料 参加者には、健康さつま1ポイントと記念品を差し上げます。